

インタビューデータ解析のための LLMとネットワーク科学の融合アプローチの提案

大規模言語モデル(LLM)がインタビュー内容を集約する過程を透明化し、明確な基準による評価を実現しました

インタビューのメリット

対話を通じた柔軟な深掘りと非言語情報の把握により、誤解を防ぎつつ、想定外の洞察や複雑な背景を引き出すことが可能

現状

- 分析に多大な時間と労力が必要
- 大量のテキストを迅速に取り込んで集約できる、LLMが注目されている

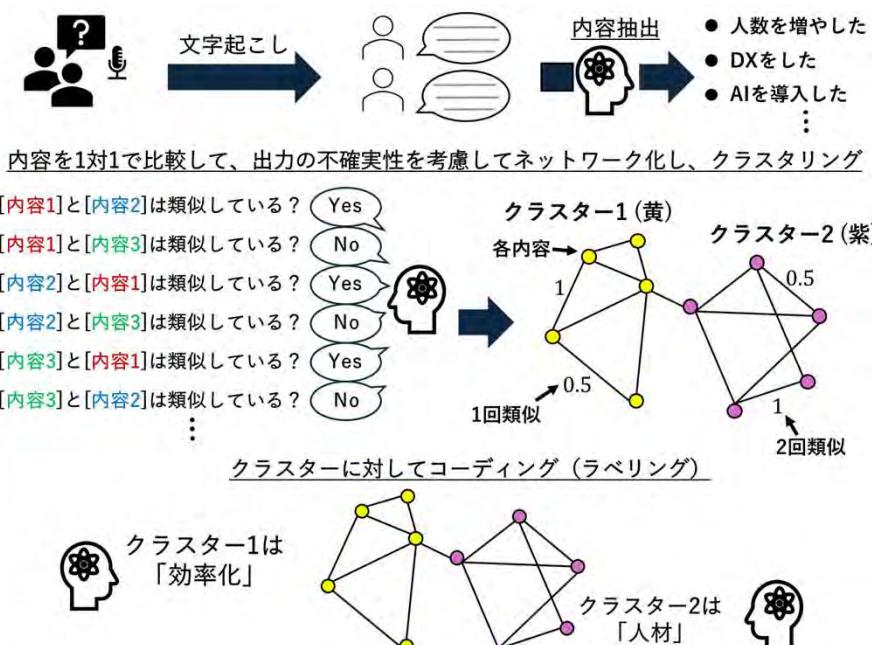
課題

- LLMがインタビュー内容を要約する過程がわからない
- 生成されたまとめ方の良さは専門家が評価するしかない



提案した枠組み

LLMが内容の類似について行う判断をネットワーク構造に落とし込み、最適化式に基づいて分割

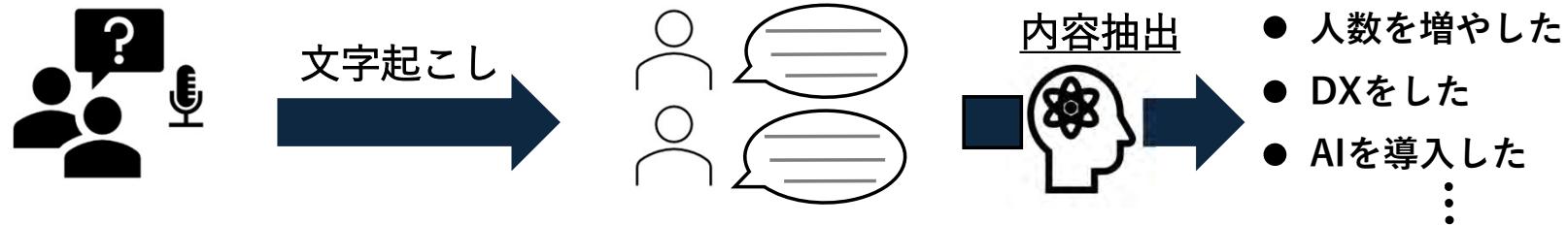


応用

複数社の企業にインタビューを実施
4時間を超える録音の文字起こしを
高速かつ低コストで解析し、
組織文化や行動の相違を見出し

貢献

- LLMがどう判断したのか、
ネットワークを見れば誰でもわかる
- まとめ方の良さは定量的な基準
- インタビューの結果について
考えることができる時間が増える



内容を1対1で比較して、出力の不確実性を考慮してネットワーク化し、クラスタリング

